

1. 近年の海洋環境の変化とレジームシフト

「レジームシフト」とは「枠組・構造（レジーム）」が「転換（シフト）」することです。その現象の特徴としては、1年から2年程度の短い期間で、急激に「気候構造の転換（レジームシフト）」が起こり、一度レジームシフトが起こると10年程度はそのレジームが持続すると言われていています。

レジームシフトは、1950年以降では1976~77年、1988~89年頃に起こったと考えられています。現在の研究によると、1940年代後半から1970年代終わり頃までは温暖レジーム、1977年頃から1980年代末までは寒冷レジーム、1980年代終わり頃から現在（2005年）までは温暖レジームが続いているとされています。

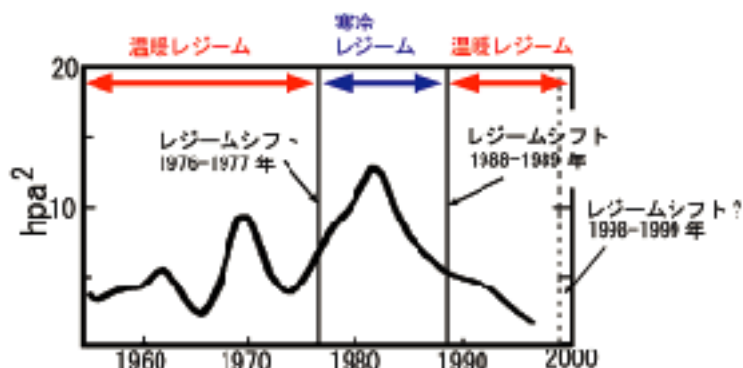


図1 冬季北太平洋指数(NPI)の経年変動(周期>8年)の分散 Minobe and Matua(1999)を改変。NPIが高いほど季節風が強い。

さらに、1990年代終わりにもレジームシフトが起こったのではないかとされています（図1）。なお、ここで使われている冬季北太平洋指数（NPI）は、気候変動を表す指標の1種で、アリューシャン低気圧の強弱を表したものです。

このような地球規模での環境の変化によって、京都府における主要浮魚類のうちマイワシ、ブリ、サワラがどのような漁獲変動を示しているかを整理してみました。

2. 近年の主要浮魚類の漁獲状況

(1) マイワシ *Sardinops melanostictus*

イ 分布

マイワシの仲間は世界中に分布していますが、日本近海に生息するのは *Sardinops melanostictus* という種類です。分布範囲は広く、日本各地の沿岸を中心に、南は黄海、北は樺太まで分布し

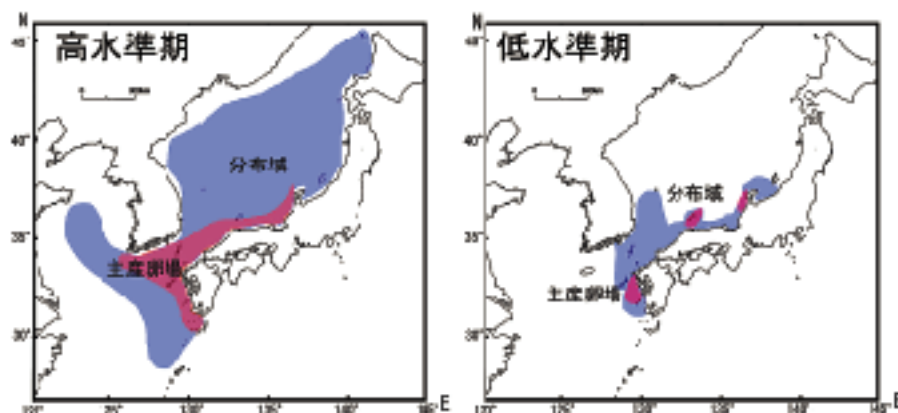


図2 マイワシの資源状態による分布範囲の違い (東シナ海・日本海のいわし類の現在(独立行政法人 水産総合研究センター2004)を改変)